

ユニセフってななに



ユニセフ (UNICEF:国際連合児童基金) は、世界中の子どもたちの命と健やかな成長を守るために活動する国連機関です。

ユニセフは、第二次世界大戦で厳しい状況におかれた子どもたちの緊急救援のために、1946年、第一回国連総会で創設されました。現在、ユニセフは、「子どもの権利条約 (児童の権利に関する条約)」で定められている子どもたちの権利を実現するために、世界約190の国と地域で活動しています。

ユニセフの主な活動

ユニセフ活動分野別の支出割合 (2020年)
(割合は四捨五入しているため、100%にならない場合があります。)



公平な機会
(社会へのインクルージョン)

すべての子どもが、人生において公平な機会を得られるように
紛争、危機、気候関連の災害、障がいの有無やジェンダーによる差別により、子どもたちの可能性が奪われることがないよう、誰もが受け入れられる社会をめざした政策提言や子どもたちへの支援など。



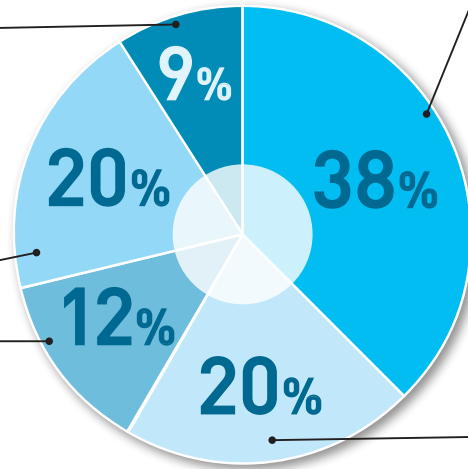
環境
(水と衛生)

すべての子どもが、安全で清潔な環境で暮らせるように
子どもの生活環境を守るための、安全な水の確保、トイレ、手洗いなどの衛生習慣を広めること、災害リスクの軽減、平和構築、都市化や汚染、気候変動への対応など。



子どもの保護

すべての子どもが、暴力や搾取から守られるように
暴力の被害にあった子どもの保護、子ども兵士の解放や社会復帰、人身売買や児童労働を防ぐ取り組みなど。



子どもの生存と成長
(栄養・保健・HIV/エイズ)

すべての子どもが、命を守られ健やかに成長できるように
予防接種、保健センターの整備、保健員の養成や、発育観察、経口補水療法などの保健の知識を広めること、母乳育児、ビタミンAや微量栄養素の補給、栄養の知識を広めること、すべての子どもたちをHIV/エイズの脅威から守るための母子感染の予防、子ども・若者に対するエイズ予防・治療の普及など。



教育

すべての子どもが、教育を受けられるように
すべての子どもが学校に通えるように、教室や男女別のトイレなどの設備を整えること、教科書や学用品の提供、先生の研修、学校運営への地域の参加、就学前教育など。

～上記の分野に横断的にかかわる活動～

緊急支援・人道支援

自然災害や紛争といった緊急事態や人道危機が発生したとき、いち早く子どもたちを守るために、テントや毛布、医薬品など、必要な支援物資を迅速に届けられる体制を整えています。また「子どもにやさしい空間」や「学習センター」などを設置し、子どもたちが日常を取りもどし、安全に過ごせるように支援しています。

ジェンダーの平等

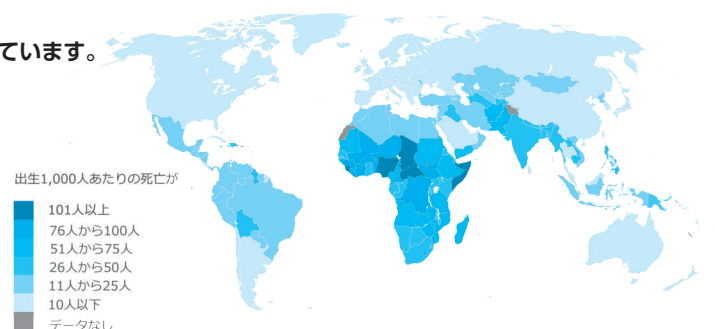
ユニセフは基本的人権の原則に基づいて、ジェンダーの平等を推進しています。各国における支援プログラムを通して、女性と女の子が、コミュニティの政治的、社会的、経済的な発展に参加できるよう支援しています。特に教育分野においては、男女に関わらず、すべての子どもが教育の機会を得られるように取り組んでいます。

ユニセフの支援基準

最も支援を必要としている子どもたちに支援が届けられるように、

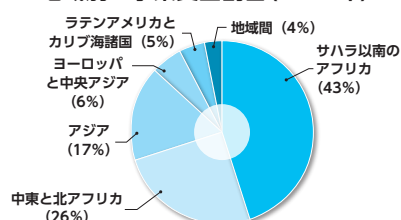
- 5歳の誕生日をむかえるまでに命をうしなう子どもの割合
- 国民1人あたりの所得
- 子ども (18歳未満) の人口

世界の5歳未満児死亡率 (2019年)



注: この地図は国や領土、国境の法的地位についてユニセフの立場を示すものではありません。

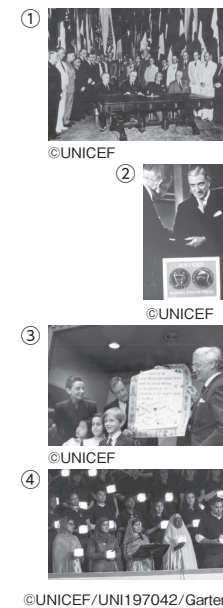
地域別の事業支出割合 (2020年)



※割合は四捨五入しているため、100%にならない場合があります。

ユニセフの歴史

1945年	第二次世界大戦が終わり、国際連合 (国連) が創設される (写真①)
1946年	第1回国連総会でUNICEF (当時の名称: 国際連合国際児童緊急基金) を創設 戦争で被害を受けた子どもへの緊急支援をはじめ
1949年	日本の子どもへのユニセフの緊急支援がはじまる—学校給食での粉ミルクなど—
1953年	名称を「国際連合児童基金」と改め、活動を開発途上国の子どもの長期的な支援へ広げる
1955年	財団法人日本ユニセフ協会設立
1964年	日本へのユニセフの支援が終わる (15年間の援助総額 当時の金額で約65億円)
1965年	ユニセフ、ノーベル平和賞を受賞 (写真②)
1989年	国連総会で「子どもの権利条約 (児童の権利に関する条約)」を採択 (写真③)
1990年	「子どものための世界サミット」開催 世界159カ国から代表が参加 子どもへの予防接種の普及率が80%に到達
1994年	「子どもの権利条約」を日本が批准する
2002年	「国連子ども特別総会」開催。21世紀の新たな子どものための目標を採択
2011年	内閣府の認定を受け、日本ユニセフ協会が財団法人から公益財団法人になる
2015年	国連持続可能な開発サミットにおいて、SDGsを含む「持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択される (写真④)
2021年	ユニセフ創設75周年を迎える



SDGsとユニセフ

貧困、不平等、環境破壊... 人類が直面する危機を乗り越えようと2015年に国連で採択された「SDGs (持続可能な開発目標)」。17個の目標が有名なSDGsですが、これは英語版で計35ページにわたる文書「我々の世界を変革する: 持続可能な開発のための2030アジェンダ」の一部です。この文書の前文と宣言には、「すべての人間の権利が守られ、地球を破壊から守り、豊かな暮らしを築き、平和を実現し、地球規模で協力し合う世界を目指す」と明記され、世界は、全員参加で「だれひとり、取り残さない」社会を実現することを誓いました。



SDGsの実現のためには、今を生きる子どもたちがその権利を守られ、それぞれが生まれもった可能性を十分に伸ばして成長できることが欠かせません。ユニセフの活動 (左ページ参照) も、SDGsの多くの目標と深く関わっています。ユニセフを通して世界の課題を学び、自分に何ができるかを考え、行動につなげていただければ幸いです。

子ども向けSDGs学習サイトがあります。ご活用ください。



持続可能な世界への第一歩
SDGs CLUB

<https://www.unicef.or.jp/kodomo/sdgs/>

大きなユニセフ・ファミリー

ユニセフが支援活動をしている国や地域には、現地事務所や地域事務所があり、その国の政府と一緒に活動しています。一方、ユニセフの支援を卒業した日本などの先進工業国には、民間でユニセフを代表するユニセフ協会があり、ユニセフの活動を支える募金活動や広報活動などを担っています。こうして、現在、ユニセフは約190の国と地域において活動をしているのです。

《ユニセフ・ファミリー》
世界約190の国と地域で活動



日本ユニセフ協会の活動

日本ユニセフ協会は、個人のみなさん、団体や企業、自治体、報道機関や学校のみなさんから、ユニセフへの募金をおあずかりしてユニセフ本部へ届けています。また、ユニセフの活動や、世界の子どもの状況などについて日本国内でお伝えしたり、子どもの課題を解決するために政府などに働きかけたりしています。

